

1999年度 大学生の就職意識調査結果報告

株式会社毎日コミュニケーションズ

代表取締役社長 佐々山 泰弘

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1(本社)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-15-14 (企画調査課)

【はじめに】

当社では1979年から全国大学生の就職意識調査および人気企業調査を実施してまいりました。本調査結果の報告は昨年まで、人気企業調査と同時に発表させて頂いてまいりましたが、本年より人気企業調査と別に男女合わせて発表させて頂くことと致しました。このたび2000年3月に卒業を予定する大学生の調査結果がまとまりましたのでご報告致します。

【主な調査結果】

就職観

- 1位.楽しく働きたい
- 2位.個人の生活と仕事を両立させたい
- 3位.プライドの持てる仕事をしたい
- 4位.自分の夢の為に働きたい

大学生の就職観の主流は、
「個人の幸せや精神的な満足」
を重視した就職観に。

大手志向

文系男子の大手志向の割合低下

44.4% (昨年比-6.2ポイント)

理系男子は微増

47.2% (昨年比+1.2ポイント)

文理女子の大手志向者の割合は大幅増

(文系 48.1%/昨年比+5.3ポイント、

理系 39.0%/昨年比+9.3ポイント)

大手企業神話の崩壊が言われて久しいが、文系男子でも大手志向者の割合の減少が見られた。
安定性のためか、女子では増えた。

会社選択のポイント

文系・理系、男女とも会社選択のポイントの1位は「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」。

文系男子 → やりがい志向の増加傾向。
理系男子 → 専門知識を身に付けさせてくれるような「研修制度のしっかりした会社」の増加が顕著に。

行きたくない会社

男子大学生 → 「仕事の内容が面白くない会社」
女子大学生 → 「暗い雰囲気のある会社」

また、選択した学生割合の増加が大きかった項目は、男子大学生で「大学、男女差別のありそうな会社」、女子大学生で「体質が古い会社」。

株式会社毎日コミュニケーションズ 企画調査課

TEL03 (3222) 7747 FAX03 (3222) 9699

E-Mail. kikaku@mycom.co.jp

報道関係資料

2. 男子就職意識調査結果

I. 就職観

就職観の選択では「楽しく働きたい」を文系男子の31.1%、理系男子の30.5%が選び、昨年に比べ僅かにポイントを落としているもののトップとなった。次いで「個人の生活と仕事を両立させたい」が文系22.0%、理系20.4%で2位に、3番目は文系男子が「プライドの持てる仕事をしたい」(16.3%)、理系男子が「自分の夢のために働きたい」(18.7%)だった。

また、昨年に比べ、選択する学生の割合が増えた項目は、文系・理系とも1位が「人のためになる仕事をしたい」(文系/+1.6ポイント、理系/+1.4ポイント)、2位が「社会に貢献したい」(文系/+1.3ポイント、理系/+0.7ポイント)だった。公共性、社会性を指向する就職観を持った学生の増加は今年のひとつの傾向といえそうだ。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
楽しく働きたい	31.1%	-1.0	30.5%	-1.3
個人の生活と仕事を両立させたい	22.0%	-1.6	20.4%	0.2
プライドの持てる仕事をしたい	16.3%	-1.1	15.1%	-1.3
自分の夢のために働きたい	15.2%	0.9	18.7%	0.2
人のためになる仕事をしたい	7.7%	1.6	8.0%	1.4
社会に貢献したい	4.4%	1.3	4.0%	0.7
出世したい	1.8%	-0.1	1.5%	0

II. 大手志向

昨年、一昨年と強まる傾向にあった「大手志向」だが、今年の調査では「絶対に大手がよい」と「自分のやりたい仕事のできるのであれば大手企業がよい」(条件付大手志向)を合わせた大手志向の割合は、理系男子で微増(昨年比+1.2ポイント)だったものの、文系男子では44.4%(昨年比-6.1ポイント)と大きく減少した。

一方、「ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」と「中堅・中小企業がよい」をたした中堅志向の割合は、文系男子46.7%(昨年比/+4.3ポイント)、理系男子45.9%(昨年比/-1.1ポイント)と文系男子で大幅に増加し、理系では僅かながら減少した。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい	44.3%	4.1	42.7%	-1.3
自分のやりたい仕事のできるのであれば大手企業がよい	38.2%	-4.0	40.5%	1.1
その他(公務員 Uターン志望など)	6.8%	-0.2	5.0%	-1.8
ゼットイに大手企業がよい	6.2%	-2.1	6.7%	0.1
中堅・中小企業がよい	2.4%	0.2	3.2%	0.2
自分で会社を起こしたい	2.2%	2.2	1.9%	1.9

報道関係資料

大手志向の推移（男女）

（「ゼッタイに大手企業がよい」と「やりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」を合わせた割合の推移）

	'92年	'93年	'94年	'95年	'96年	'97年	'98年	'99年
文系男子	66.10%	53.10%	47.80%	44.90%	41.80%	46.00%	50.50%	47.20%
理系男子	65.60%	55.50%	47.40%	45.30%	41.60%	44.00%	46.00%	44.40%

	'92年	'93年	'94年	'95年	'96年	'97年	'98年	'99年
文系女子	64.20%	46.10%	37.50%	32.90%	33.20%	37.00%	42.80%	48.10%
理系女子	66.30%	47.80%	39.70%	33.30%	32.60%	31.90%	29.80%	39.00%

Ⅲ. 会社選択のポイント

会社を選択する際に重視する項目としては、文系、理系とも昨年に引き続き、「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」を第一にあげる学生が最も多く、文系 46.7% (昨年比+3.6 ポイント)、理系男子は 49.3% (昨年比-0.1 ポイント)。2位は文系が「働きがいのある会社」(23.7%/昨年比+1.2 ポイント)、理系が「安定している会社」(20.7%/昨年比-1.0 ポイント)だった。

また、昨年に比べ、選択する学生の割合が増えた項目は、文系で1位「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」(+3.6 ポイント)、2位「研修制度のしっかりしている会社」(昨年比+1.7 ポイント)。理系では1位「研修制度のしっかりしている会社」(昨年比+2.2 ポイント)、2位「働きがいのある会社」(昨年比+1.7 ポイント)であった。昨年の安定志向に代わり、やりがい志向が増加傾向にあること、終身雇用制の崩壊と言われる折、(しっかりと研修を受け)専門知識を身につけさせてくれる企業を志望するようになってきていること等が今年の特徴的な傾向といえる。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
自分のやりたい(職種)ができる会社	46.7%	3.6	49.3%	-0.1
働きがいのある会社	23.7%	1.2	19.3%	1.7
安定している会社	19.8%	-2.5	20.7%	-1.0
これから伸びそうな会社	19.4%	-0.3	19.6%	1.6
自分の能力・専門を活かせる会社	13.8%	0.1	20.3%	-2.4
社風が良い会社	9.5%	-1.9	7.6%	-0.9
志望業種の会社	7.7%	1.1	4.9%	-0.5
一生続けられる会社	7.2%	-0.5	6.7%	0.1
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	7.1%	-1.2	7.3%	-0.2
給料のよい会社	6.7%	-0.9	8.2%	-0.1
海外で活躍できそうな会社	5.7%	-1.6	5.4%	-0.3
研修制度のしっかりしている会社	5.1%	1.7	6.1%	2.2
休日、休暇の多い会社	4.9%	-0.7	4.9%	-1.3
親しみのある会社	4.6%	1.1	3.9%	0.2
若手が活躍できる会社	3.9%	0.2	3.3%	0.0
転勤のない会社	3.7%	0.2	3.3%	-0.1
大学・男女差別のない会社	3.2%	0.2	2.3%	-0.2
いろいろな職種を経験できる会社	3.0%	0.0	3.6%	0.9
有名な会社	2.7%	0.2	2.4%	0.7
事業を多角化している会社	1.4%	-0.2	0.9%	-0.4

報道関係資料

IV. 行きたくない会社

行きたくない会社としては、例年同様に文系・理系とも「仕事内容がおもしろくない会社」（文系：43.5%、理系：47.0%）を挙げる学生が最も多かった。次いで文系では、昨年の「暗い雰囲気ของบริษัท」に代わり、「財務内容の悪い会社」（33.1%）が、理系では昨年同様「暗い雰囲気ของบริษัท」（27.4%）が挙げられた。昨年との比較では、改正雇用機会均等法施行の影響か、文系・理系とも「大学・男女差別のありそうな会社」を挙げた学生の割合が最も増加（文系/+11.9ポイント、理系/+15.0ポイント）した。次に増えた項目は、文系・理系とも「仕事内容がおもしろくない会社」（文系/+8.9ポイント、理系/+6.1ポイント）、3番目に増えた項目も文理とも「財務内容の悪い会社」（文系/+8.3ポイント、理系/+2.9ポイント）であった。「財務内容の悪い会社」を挙げる学生は一昨年（文系/16.1%、理系/16.5%）から2年連続大幅に増えており、就職企業選択の主要な判断材料になってきていると言える。

内容	文系		理系	
		昨年比		昨年比
仕事の内容がおもしろくない会社	43.5%	8.9	47.0%	6.1
財務内容の悪い会社	33.1%	8.3	25.5%	2.9
暗い雰囲気ของบริษัท	25.1%	-5.3	27.4%	-5.7
ノルマのきつそうな会社	22.5%	-6.3	21.0%	1.1
大学・男女差別のありそうな会社	20.3%	11.9	22.7%	15.0
体質が古い会社	18.6%	-2.3	18.4%	-1.3
休日・休暇がとれない（少ない）会社	15.2%	-0.9	13.3%	-1.8
給料の安い会社	8.8%	0.6	9.1%	-1.4
歯車になりそうな会社	7.1%	-1.7	9.0%	-0.6
残業が多い会社	4.8%	1.1	5.5%	2.5
転勤の多い会社	1.0%	-14.4	0.5%	-17.5

報道関係資料

3. 女子就職意識調査結果

I. 就職観

文系女子の37.3%（前年比-3.0ポイント）、理系女子の35.5%（前年比+0.9ポイント）が「楽しく働きたい」と答え、4大女子大学生の就職観の1位となった。次いで「個人の生活と仕事を両立させたい」が文系女子23.2%（前年比+2.9ポイント）、理系女子が21.0%（前年比-0.6ポイント）で、文系・理系とも昨年と趨勢は変わらないものの、文系のポイントアップが目立った。また文系・理系とも、3番目には「自分の夢のために働きたい」（文系/15.2%、理系/16.6%）が、4番目には「プライドがもてる仕事をしたい」（文系/14.0%、理系/15.6%）が選ばれた。

5位の「人のためになる仕事をしたい」では、選択した学生が文系6.1%、理系8.1%と急降下しており、上位4位までの選択肢に共通する「個人の幸せや精神的満足」を重視した就職観が女子大学生の主流といえる結果となった。

	文系		理系	
		昨年比		昨年比
楽しく働きたい	37.3%	-3.0	35.5%	0.9
個人の生活と仕事を両立させたい	23.2%	2.9	21.0%	-0.6
自分の夢のために働きたい	15.2%	-1.3	16.6%	4.4
プライドがもてる仕事をしたい	14.0%	0.3	15.6%	-1.9
人のためになる仕事をしたい	6.1%	0.2	8.1%	-2.4
社会に貢献したい	3.0%	0.2	2.3%	-0.6
収入さえあればよい	1.1%	0.4	0.6%	-0.1
出世したい	0.1%	-2.0	0.3%	0.3

II. 大手志向

文系・理系とも、最も回答が多かった項目は「ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」（文系/42.8%、理系/50.8%）、次に多かった項目は「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」（文系/41.4%、理系/33.6%）であった。また、「絶対に大手企業がよい」、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」（条件付大手志向）を合わせた大手志向の割合は文系/48.1%、理系/39.0%。「ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」、「中堅・中小企業がよい」を合わせた中堅志向の割合は文系/44.8%、理系/53.3%で、昨年引き続き、文系は大手志向、理系はやりがい志向という就職観が窺われた。また、不況を反映してか、比較的安定性の高い、大手志向の割合（上記）が昨年に比べ、文系で5.3ポイント、理系で9.3ポイント上昇しており、女子大学生の大手志向の強まりが見られた。

	文系		理系	
		昨年比		昨年比
ヤリガイのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい	42.8%	-5.9	50.8%	-6.7
自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい	41.4%	3.4	33.6%	8.1
その他（公務員 Uターン志望など）	6.8%	1.7	7.3%	-1.8
ゼツタイに大手企業がよい	6.7%	1.9	5.4%	1.2
中堅・中小企業がよい	2.0%	-1.4	2.5%	-1.1
自分で会社を起こしたい	0.4%	0.4	0.4%	0.4

報道関係資料

Ⅲ. 会社選択のポイント

会社選択の際に重視するポイントでは、「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」を文系女子の48.2%、理系女子では52.4%が選び、共に約半数の学生が選ぶ、会社選択の最重要ポイントとなった。また、文系の2位は「社風が良い会社」、3位は「働きがいのある会社」。理系では2位が「自分の能力・専門を活かせる会社」、3位は「働きがいのある会社」であった。

昨年と比較して、選択する学生の割合の最も増えた項目は、文系「安定している会社」+2.8ポイント、理系「大学・男女差別のない会社」+1.9ポイントであった。

	文系		理系	
		昨年比		昨年比
自分のやりたい仕事(職種)ができる会社	48.2%	-5.5	52.4%	-1.5
社風が良い会社	19.7%	-1.6	12.4%	0.2
働きがいのある会社	19.6%	1.3	18.7%	1.6
安定している会社	17.2%	2.8	16.5%	1.1
自分の能力・専門を活かせる会社	12.9%	0.0	23.1%	-3.8
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	10.5%	0.9	8.9%	-1.8
大学・男女差別のない会社	10.3%	0.6	12.6%	1.9
これから伸びそうな会社	9.6%	0.9	10.8%	1.1
海外で活躍できそうな会社	9.1%	-0.1	6.3%	0.9
志望業種の会社	7.0%	-0.5	4.8%	-0.3
一生続けられる会社	6.4%	-0.1	7.0%	1.4
給料のよい会社	5.8%	0.9	4.9%	-0.5
親しみのある会社	4.9%	-0.8	5.4%	-0.2
研修制度のしっかりしている会社	4.7%	1.2	4.1%	-0.6
休日、休暇の多い会社	3.8%	-0.1	3.6%	-1.5
転勤のない会社	2.9%	0.7	3.2%	1.2
有名な会社	2.4%	0.5	1.5%	0.7
いろいろな職種を経験できる会社	2.3%	-0.6	1.5%	0.0
若手が活躍できる会社	2.1%	-0.1	1.5%	-0.5
事業を多角化している会社	0.6%	-0.4	0.7%	0.5

報道関係資料

IV. 行きたくない会社

文系・理系とも4割弱の学生が「暗い雰囲気のある会社」（文系/38.7%、理系/37.6%）を行きたくない会社として挙げ、「ノルマのきつそうな会社」（文系/35.7%、理系/26.3%）、「仕事の内容がおもしろくない会社」（文系/33.4%、理系/36.7%）、「大学・男女差別のありそうな会社」（文系/23.2%、理系/31.4%）が上位を占める傾向は昨年と同じ結果であった。昨年に比べ、選択した学生の割合が最も上昇した項目は文系・理系とも「体質が古い会社」（文系/+2.5ポイント、理系/+4.3ポイント）で、変わりつつある日本的雇用制度の未来に期待を寄せる女子大学生の姿が垣間見られた。

	文系女子		理系女子	
		昨年比		昨年比
暗い雰囲気のある会社	38.7%	-0.8	37.6%	-0.2
ノルマのきつそうな会社	35.7%	-3.3	26.3%	-4.1
仕事の内容がおもしろくない会社	33.4%	-0.8	36.7%	0.2
大学・男女差別のありそうな会社	23.2%	-0.6	31.4%	3.1
体質が古い会社	17.7%	2.5	17.0%	4.3
財務内容の悪い会社	15.7%	2.0	14.5%	-0.4
休日・休暇がとれない(少ない)会社	13.2%	-0.9	12.0%	-0.9
転勤の多い会社	8.2%	-0.6	12.9%	0.7
給料の安い会社	5.7%	0.9	5.4%	-0.4
歯車になりそうな会社	5.1%	1.1	4.5%	-2.3
残業が多い会社	3.5%	0.7	1.6%	-0.1